病原因子検査学特論Ⅰ（Advance of Pathogenic Laboratory Ⅰ）

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
井上 孝	1年次 前期	選択	2	30	講義	あり	巻末掲載	可

授業概要（内容と進め方）及び課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	病原因子検査学特論Ⅰでは、プロバイオティクスの保健効果について研究する。本講義では生活習慣病の予防・臨床に関する最新の知見・技術の概要とプレバイオティクスの作用機序について学修する。 課題に対するフィードバック方法／レポートに対して討論するほかコメントをつけて返却する。 実務家教員（井上）が授業を進める。
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー②「専門職業人として医療に対する幅広い知識と技能を駆使し、高度な臨床検査を実践できる。」及び④「臨床検査技師の役割を探求し、臨床検査学分野の高度な実践者、教育者及び研究者として社会に対して責任を果たし、貢献できる。」の達成に寄与している。
到達目標（履修者が到達すべき目標）	1.プロバイオティクスの定義について理解できる。 2.プロバイオティクスの保健効果について理解できる。 3.食品の安全性・有効性に関する基本的な評価方法について理解できる。
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	第1回～第15回事前学習：事前に計画されている単元について予習を行っておく／教科書の関連部分をあらかじめ読んでおくこと（各30分） 第1回～第15回事後学習：講義内容で不明な点は、講義終了直後もしくはオフィスアワーを利用して質問するなどして明確にするよう努める／担当教員が配布する資料で復習を行うこと。（各30分）
	※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位15回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位15回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

授業計画	第 1 回	環境保健学の概要（講義）	井上　孝
	第 2 回	食と健康（講義）	井上　孝
	第 3 回	特定保健用食品の特徴（講義）	井上　孝
	第 4 回	プロバイオティクスの定義（講義）	井上　孝
	第 5 回	プロバイオティクスの保健効果1（ゼミ）	井上　孝
	第 6 回	プロバイオティクスの保健効果2（ゼミ）	井上　孝
	第 7 回	プロバイオティクスの作用機序1（ゼミ）	井上　孝
	第 8 回	プロバイオティクスの作用機序2（ゼミ）	井上　孝
	第 9 回	プロバイオティクス保健効果の評価方法1（ゼミ）	井上　孝
	第 10 回	プロバイオティクス保健効果の評価方法2（ゼミ）	井上　孝
	第 11 回	プロバイオティクス保健効果の評価方法3（ゼミ）	井上　孝
	第 12 回	プロバイオティクス保健効果の評価方法4（ゼミ）	井上　孝
	第 13 回	食品暴露による健康障害・疾病発生（講義）	井上　孝
	第 14 回	生活習慣病の宿主要因と環境要因予防対策（講義）	井上　孝
	第 15 回	生活習慣病の予防対策（ゼミ）	井上　孝

評価方法 評価基準	授業参加態度、プレゼンテーション、レポートなどを合わせて総合的に評価する(100%)。		
教科書	なし	参考書等	なし
学生へのメッセージ	プロバイオティクスの保健効果は現在の健康志向の課題の中心の一つとなっている。健康食品を考える上でも重要であり、しっかりした学習をするよう望みます。		